

WE, JOKERS 英語のジョークを楽しむ会会報

No.39 October 10, 2013

QUESTION BOX SUPPLEMENT

QUESTION BOX からの挑戦

QUOTES FROM MARX BROTHERS



下記の引用文の【笑いのツボ】をお知らせください。全部でなくても結構です。もしかしたら、ジョークでないものも混じっているかも知れません。 (匿名子)

- 1) [When caught by his wife, kissing a chorus girl] I wasn't kissing her. I was whispering in her mouth. (Chico)
- 2) [Feeling patient's pulse] Either he's dead, or my watch has stopped. (Groucho)
- 3) Send two dozen roses to Room 424 and put 'Emily, I love you' on the back of the bill. (Groucho)
- 4) [Putting his arms around Emily] If I hold you any closer, I'll be in back of you. (Groucho)
- 5) I've worked myself up from nothing to a state of extreme poverty. (Groucho)
- 6) I was so long writing my review that I never got around to reading the book. (Groucho)
- 7) Military intelligence is a contradiction in terms. (Groucho)
- 8) A man is as young as the woman he feels. (Groucho)
- 9) If you see me in the station at Moscow tomorrow morning, remind me I'm alive. (Harpo)
- 10) You ever see me act? You could give me every good line since Chaucer, and I'd ruin it. (Zeppo)

ENTER THE JOKERS (in order of arrival)

服部 陽一

Marx Brothers は 20 世紀初頭から半ばまで、ニューヨークを中心に活躍した兄弟コメディアン。出題は彼等のコメディや漫談の中からのジョークと思われる。

- 1) コーラスガールにキスしている所を妻に見つかった男の苦しい言い訳 「彼女にキスしていたんじゃないよ。彼女の口の中に囁いていたんだ」
- 2) 脈をとりながら「この男が死んでいるのか、オレの時計が止まっているのか…」というとんちんかんジョーク。実際に脈拍がないが、これは心臓が止まっているのか、時計が止まっているのか、のどちらかだと勘違いしているところがおかしい。
- 3) 424 号室に 2 ダースの薔薇の花を贈ってくれ。そして「Emily, I love you」と領収書の裏に書いて、その花に添えて置いてくれという、ちゃっかりしていて、実はばかげた依頼。
- 4) Emily の後ろに腕をまわし、「これ以上抱き寄せると、うしろに行ってしまう」という滑稽なセリフ。映画の中のセリフなので、映像を見ればもっと面白いと思われる。
- 5) 私は無一文から働いて極貧状態にまで来た、という自虐的ジョーク。
- 6) 私はこれまで長い間、読むのを避けなかった本の批評を書いて来た。つまり難しい本の批評は避けて来たという勝手な批評家だということ。
- 7) インテリジェンスのない軍部のインテリジェンス (諜報)、これは言葉上の矛盾である。確かにその通り。
- 8) 男は彼が触って感じる女と同じくらい若い。彼女に触ってみて若いなと思ったとき、君は若い。年寄りだなと思った時、君は老いた。(サミュエル・ウルマンの「青春」より)
- 9) 「明日の朝、僕がモスクワの駅に居なかったら、僕は死んだと思ってくれ」の対偶をとると、「明日の朝、僕がモスクワの駅に居たら、僕は生きていると思ってくれ」となんと当たり前の話になる。待遇は常に正しいが、このように使うとばかげたものになって可笑的い。

- 10) 僕の芝居しているところ、見たことある？ チョーサー以来の名セリフをくれても大丈夫だよ。僕がきつと全部台無しにするよ。(チョーサーのカンタベリー物語には人生が崩壊する (ruin) 話が出てくる)。

新堂 睦子

- 1) ものはいいよう。
“I wonder what fool it was that first invented kissing.” by Jonathan Swift
- 2)



3)

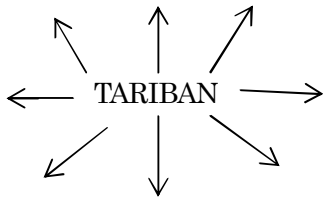


Pay Later

- 4) 骨まで愛して。



- 5) すかんぴんと赤貧の違いは？
- 6) 書評を書くのにてまどって、本を読む暇もなかった！！
- 7) 軍事情報 (部) でもあり、軍人は少しおつむが弱いの意味も。Agree to disagree も oxymoron です ね。



See? It's not a joke after all.

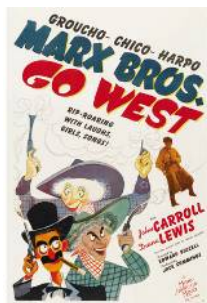
- 8) *Is a woman only as young as the man she feels?*
 9) Where are my pants? You've got them on. と同じ類でしょうか。よくわかりません。
 10) Zeppo, left, Groucho, Chico and Harpo Marx ham it up in their first film "The Cocoanuts" (1929). 大げさな演技で芝居を台無しにした？



REENTER THE CHALLENGER

マルクス兄弟ものが、私の生まれ育った東北の小都市にある洋画の二番館にかかったのは、1950年代、私が小学5,6年生の頃です。二本立てで、子供30円。最終回を一本だけ見る「ナイトショー」だと割引がありました。上映中に停電になることも多く、「自家発電あり」というのが、その館のウリでした。

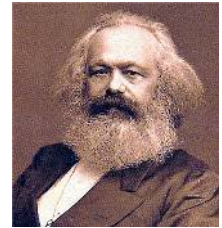
白黒のトーキーでした、手法はほとんどサイレント時代のもまで、それがガキ共には受けました。記憶に残っている「二丁拳銃」では、三人兄弟の乗った列車がインディア



ンに追われ、速度を上げるため、客車の床を斧で叩き割った薪を、せっせと釜にくべる場面です。

ある日、友達を誘いに行くと、彼のお父さんから、

何の映画かと訊ねられ、「マルクス」と答えました。お父さんは、大学病院に勤務する医師で、街では数少ないインテリの一人でした。私の「マルクス」との答えに、驚いた顔で「マルクスって、あのマルクスのことか？」と問い返されたのを、今でも鮮やかに覚えています。



さて、服部さんと新堂さんから寄せられたご解答に、大いに私の蒙を開かされました。

- 1) 新堂さんから教えて頂いたジョナサン・スウィフトによるキスへの言及。さすがに「ヤフー」を発明した稀代の厭世家だけあって、ブラックを乗り越えて、これはもう人世への呪詛ですね。
 5) 'from nothing to extreme poverty' の一句を見た時、自分のことかと思っ、一瞬ドキッとしました。
 6) ここは、服部さんと新堂さんとで解釈が分かれています。文法的にはどちらの解釈も成り立つと思いますが、“Please accept my resignation. I don't want to belong to any club that will accept me as a member.” (入会は辞退いたします。私の入会を認めてくださるようなクラブに加入することを、潔しとしませんので) というグループの韜晦ぶりに照らしますと、「私は長い間、当の書物は読まないままで書評を書いて来た」という、わるフザケ、あるいは、手抜き書評家たちに対するあてこすりのような感じがします。
 8) FEEL を「気持ちがドキンとする」と取るか、「(直接) 肌に触れてみる」と取るかが解釈の分かれ道。うっかり後者の道を行った人は、新堂さんから手痛い逆ネジを食らわれるのです。
 10) 三文コメディアンが切って見せた颯爽たるタンカではないでしょうか。ミューズの神に仕える、教養と香気あふれる「藝術」など何するものぞ、との心意気が伝わってくるト芸人宣言だと思います。

私たち JOKE-LOVING CLUB の会員もまた…。
 出題者=匿名子の正体は、佐川光徳でした。